

## 令和4年度 研究開発学校フォーラム

### 研究開発課題

高度に競争的でグローバル化された多様性社会に適応するために求められる、3つの次元（躍動する感性・レジリエンス・横断的な知識）の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一貫教育カリキュラムの研究開発



令和5年1月18日(水)  
広島大学附属三原中学校 外2校園

# 研究開発の特徴

研究開発課題とその設定背景

2

### 背景

予測不可能な(VUCA)時代・様々な価値観の混在した多様性社会の到来  
例えば…感染症の流行による全国の一斉休校/タブレット端末の導入による教育のデジタル化

求められる力

他者との協働による課題解決/情報の見極め, 再構成  
新たな価値へのつながり/複雑な状況変化の中での目的の再構成  
(学習指導要領解説 総則編より)

### 附属三原学校園の子どもたちの新たな課題

- ・新しいことには二の足を踏む
- ・粘り強く取り組めない



○これまでの学校教育の在り方にとらわれた教育活動だけでは、子どもたちが将来社会に対応できなくなる可能性がある  
→教育として何を求めるか

3

### 研究開発課題 研究仮説



めざす子ども像



### 研究開発課題

高度に競争的でグローバル化された多様性社会に適応するために求められる、3つの次元「躍動する感性」「レジリエンス」「横断的な知識」の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一貫教育カリキュラムの研究開発

### 研究仮説

道徳・特別活動・総合的な学習の時間の全ての時数と各教科の4分の1程度を上限に関連させた新領域「光輝(かがやき)」でメタ学習を通して行う幼小中一貫教育カリキュラムを開発, 実践することにより, 多様性社会に適応することにつながる3つの次元(躍動する感性・レジリエンス・横断的な知識)の基礎となる資質・能力を育成することができるであろう。

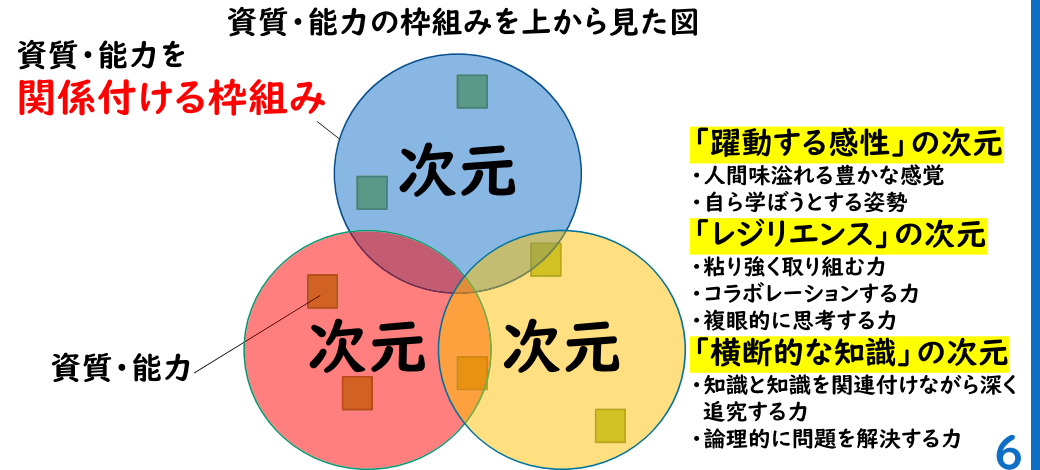
4

研究概要 研究開発における「学年区分」の設置



5

研究概要 「本学校園独自の資質・能力」と「3つの次元」



6

研究概要

多様性社会に適応するための  
3つの次元の基礎となる  
資質・能力

新領域「光輝(かがやき)」

総合的な学習の時間の  
全ての時間

道徳・特別活動の  
全ての時間

各教科の  
1/4上限の時間

「光輝(かがやき)視点の保育」

7

光輝(かがやき)・光輝(かがやき)視点の保育の  
特徴や魅力

- ・幼稚園から中学校までの**学びの一貫性**
- ・学校の枠組みを超える**異校種・異学年交流**の充実
- ・自己を見つめ直し、自分自身の生き方について考えたりする活動を通して、必要な**資質・能力**を育んだりすることができる
- ・教科の枠組みにとらわれない、**横断的な学び**や**自由なカリキュラム・デザイン**
- ・子どもが自分たちで学び進める**探究的な学習**

8

## 研究開発：三原学校園の到達点

### 幼小中一貫教育の充実

これから必要となる  
資質・能力を育てたい

・試行錯誤

光輝

### カリキュラム開発の到達点

- ・資質・能力系統表の作成とその更新 (PDCAサイクル)
- ・子どもたちの言葉で語る資質・能力
- ・メタ学習を促す振り返りの充実
- ・道徳と特活を包摂したカリキュラム作成
- ・教科と光輝を関連させ、その関連の方法や関係性について整理

### 学校としての到達点

・組織的な  
研究  
・継承発展

- ・協働する力の向上
- ・子どもを見取る力の向上
- ・カリキュラム・デザイン/マネジメントをする力の向上

効果的なカリキュラム・デザイン/マネジメントをしたい

## 研究開発：三原学校園の到達点

### 幼小中一貫教育の充実

これから必要となる  
資質・能力を育てたい

・試行錯誤

光輝

### カリキュラム開発の到達点

- ・資質・能力系統表の作成とその更新 (PDCAサイクル)
- ・子どもたちの言葉で語る資質・能力
- ・メタ学習を促す振り返りの充実
- ・道徳と特活を包摂したカリキュラム作成
- ・教科と光輝を関連させ、その関連の方法や関係性について整理

### 学校としての到達点

・組織的な  
研究  
・継承発展

- ・協働する力の向上
- ・子どもを見取る力の向上
- ・カリキュラム・デザイン/マネジメントをする力の向上

効果的なカリキュラム・デザイン/マネジメントをしたい

## 研究開発：三原学校園の到達点

### 幼小中一貫教育の充実

これから必要となる  
資質・能力を育てたい

・試行錯誤

光輝

### カリキュラム開発の到達点

- ・資質・能力系統表の作成とその更新 (PDCAサイクル)
- ・子どもたちの言葉で語る資質・能力
- ・メタ学習を促す振り返りの充実
- ・道徳と特活を包摂したカリキュラム作成
- ・教科と光輝を関連させ、その関連の方法や関係性について整理

### 学校としての到達点

・組織的な  
研究  
・継承発展

- ・協働する力の向上
- ・子どもを見取る力の向上
- ・カリキュラム・デザイン/マネジメントをする力の向上

効果的なカリキュラム・デザイン/マネジメントをしたい

# 子どもを主役とした 資質・能力の設定と その振り返り

子どもの言葉で語る  
子どもの思いや願いに寄り添う



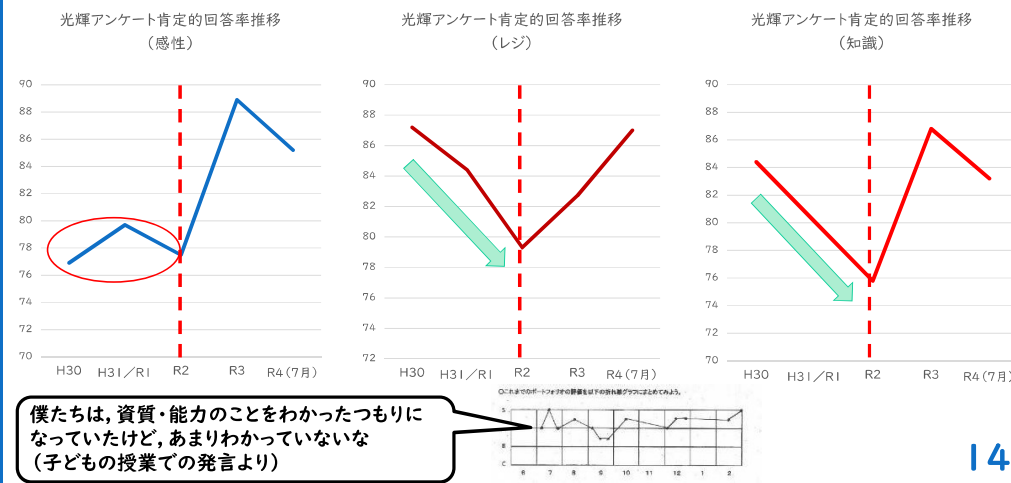
## 研究概要

### これまでの研究の流れ

1年次	2年次	※名目指定	3年次	4年次
H30	H31/R1	R2	R3	R4
資質・能力の設定	資質・能力系統表の見直し	単元の整理と関連表の作成	体系的なまとめ (プログラム・実践事例)	カリキュラム評価 (質的・量的の両側面から)
単元開発	資質・能力の再設定	光輝プログラム等への集約・整理	道徳や特別活動の位置づけの強化	外部発信の充実
資質・能力系統表の作成	各教科の見方・考え方の整理と集約	生徒が作成するルーブリックの考案	子どもが設定する自分たちのめざす姿の設定の広がり (中学生から小学校3・4年生へ)	卒業生アンケートの実施

13

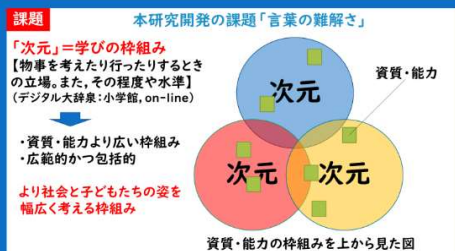
## 調査結果 課題 児童生徒光輝アンケート肯定的回答率推移



14

## 課題

### 本研究開発の課題「言葉の難解さ」



### 1・2年目の課題

教員でどのように研究を理解し、授業・教育という具体的に落とし込んでいくか



改善策 いろいろな人が運営者となり全校種の教員が集っての光輝に関する研修会を実施

15

## 取組 3年目以降 < 資質・能力系統表の作成 >

資質・能力系統表の言葉を自分たちの言葉に置き換えている中でのやり取りの一場面

6 問題文	いろいろな人と協力して、課題を見つけ、試行錯誤し、改善案を出せるようにする。	7 問題文	様々な意見をみんなで共有して、それをもとに納得解を導き出す。
4	人間味溢れる豊かな感覚	1人1人の意見を持ち、それを受け止め、様々な感じ方や考え方を大切にします。	B-Cの群衆を決めよう
		1人1人の意見を持ち、他人の意見を受け止める。	C 意見はもてたが、他人の意見を受け止めることができなかった。

経験と情報を結びつけて書いてあるんですけど、なんで

16



## 取組 4年目以降 < 資質・能力系統表の作成 >

1 研究開発経路 【高度に専門的・グローバル化した多様な社会に対応するために求められる、3つの次元（「豊穣する感性・レジリエンス・横断的な知識」）の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一貫教育カリキュラムの研究開発】			
2 めざす子ども像について（中学校卒業時） 【互いに高め合う環境の中で共創の喜びを感じながら、広い視野から知性を磨き、挑戦する気概をもち続ける、社会の発展に貢献する高い志をもつ子ども】			
3 3つの次元について		4 3つの次元の基礎となる資質・能力にかかわる目標	
次元	豊穣する感性	レジリエンス	横断的な知識
とらえ	<人間関係の豊かな感覚を基に、前向きな価値観に基づき行動しようとすること>	<逆境にさらされても諦めず、目標を達成するために再励すること>	<習得した知識を実生活等において活用すること>
資質・能力	人間関係の豊かな感覚 【他人の意見を受けとめ、多様性を尊重し他人の価値観を大切にすること】	レジリエンス 【困難な状況においても挑戦し続けることができる】	横断的な知識 【他分野の知識を応用して問題を解決することができる】
	自ら学ぼうとする姿勢 【自ら進んで高学なことも大膽して粘り強く取り組む】	レジリエンス 【困難な状況においても挑戦し続けることができる】	横断的な知識 【他分野の知識を応用して問題を解決することができる】
資質・能力	粘り強く取り組む力 【粘り強く取り組む力】	レジリエンス 【困難な状況においても挑戦し続けることができる】	横断的な知識 【他分野の知識を応用して問題を解決することができる】
	粘り強く取り組む力 【粘り強く取り組む力】	レジリエンス 【困難な状況においても挑戦し続けることができる】	横断的な知識 【他分野の知識を応用して問題を解決することができる】
資質・能力	粘り強く取り組む力 【粘り強く取り組む力】	レジリエンス 【困難な状況においても挑戦し続けることができる】	横断的な知識 【他分野の知識を応用して問題を解決することができる】
	粘り強く取り組む力 【粘り強く取り組む力】	レジリエンス 【困難な状況においても挑戦し続けることができる】	横断的な知識 【他分野の知識を応用して問題を解決することができる】

17

## 取組 4年目以降 < 資質・能力系統表の作成 >

【レジリエンスについて】	粘り強く取り組む力 【粘り強く取り組む力】	ステップ8 うまくいかないことに遭遇しても、何處も試行錯誤し、解決に向けて行動することができる。	小中接続期 ステップ9 うまくいかないことに遭遇しても、見通しをもって試行錯誤し、解決に向けて行動することができる。	う こ り
	粘り強く取り組む力 【粘り強く取り組む力】	ステップ8 うまくいかないことに遭遇しても、何處も試行錯誤し、解決に向けて行動することができる。	小中接続期 ステップ9 うまくいかないことに遭遇しても、見通しをもって試行錯誤し、解決に向けて行動することができる。	う こ り
【横断的な知識について】	粘り強く取り組む力 【粘り強く取り組む力】	ステップ8 うまくいかないことに遭遇しても、何處も試行錯誤し、解決に向けて行動することができる。	小中接続期 ステップ9 うまくいかないことに遭遇しても、見通しをもって試行錯誤し、解決に向けて行動することができる。	う こ り
	粘り強く取り組む力 【粘り強く取り組む力】	ステップ8 うまくいかないことに遭遇しても、何處も試行錯誤し、解決に向けて行動することができる。	小中接続期 ステップ9 うまくいかないことに遭遇しても、見通しをもって試行錯誤し、解決に向けて行動することができる。	う こ り

6 粘り強く取り組む力

**A** いろいろな人と協力して、課題を見つけ、試行錯誤し、改善案を出せるようになる。

**B** /人でも、課題を見つけ、試行錯誤し、改善案を出せるようになる。

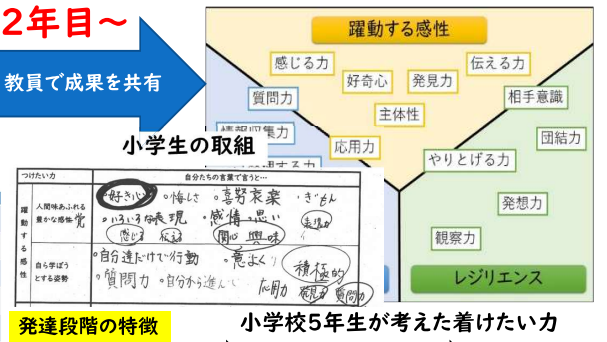
**C** 課題を見つけるニヒロびきだが、試行錯誤して改善案を出せるニヒロびきになった。

子どもの言葉で考えるルーブリック

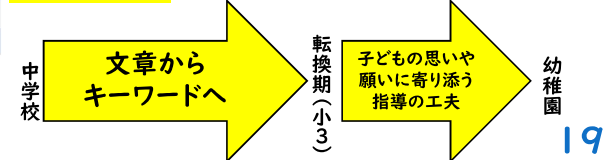
18

## 成果 < 資質・能力系統表の作成を作成した結果 >

僕たちは、社会に出た時にはこういう力が必要だと思って、資質・能力として設定しました。



資質・能力	7年生が自分たちの言葉で決めたもの
人間関係の豊かな感覚	1人1人の意見を受けとめ、多様性を尊重し他人の価値観を大切にすること
自ら学ぼうとする姿勢	自ら進んで高学なことも大膽して粘り強く取り組む
粘り強く取り組む力	7年生で協力して挑戦し、課題が見つかったも、乗り越えられるように思考錯誤し努力する。
コラボレーションする力	積極的に関わり合いを築き、目標に向かう。
複眼的に思考する力	多種多様な視点から見て、自分では考えつかなかった新しい考え方を身に付ける。
知識と知識を関連付けながら追究する力	いままでの知識を応用し、自分の考えを導き出して、学びを深める。
論理的に問題を解決する力	自分の意見に理由をもち他の意見を取り入れながら問題を解決する。



19

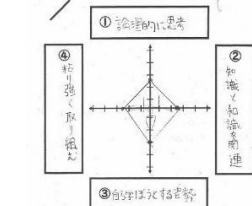
## 成果 「学年区分」ごとのメタ学習の促進

20

## 提言 自分たちの言葉で描く「目標設定」とメタ認知を促す「振り返り」の充実



思いや願いに寄り添う振り返り



レーダーチャートを用いた振り返り



ICTを用いた振り返り

カリキュラムへの反映



子どもの振り返りの分析

内容	スタート振り返り	評価	S
目標	自分の行動を振り返り、これからどうなるべきか自分を見直す。		
よかった点 反省点	スタートしての学習を振り返った授業や先生の話の面白さを、自分の思ったことを発表する。		
改善点	自分なりの考えを、1回1回話さない。		

子どもの感想

子どもが必要感をもてる「目標の設定」と、自己の成長を見つめる「振り返りの充実」といった**指導と評価の一体化の充実**がカリキュラムに欠かせない。

21

# 道徳・特別活動を包摂 教科を関連させたことの効果

新領域「光輝(かがやき)」と光輝(かがやき)視点の保育での取組を中心にして

22

## 研究開発: 三原学校園の到達点

### 幼小中一貫教育の充実

これから必要となる  
資質・能力を育てたい

効果的なカリキュラム・デザイン/マネジメントをしたい

・試行錯誤

光輝

・組織的な研究  
・継承発展

### カリキュラム開発の到達点

- ・資質・能力系統表の作成とその更新 (PDCAサイクル)
- ・子どもたちの言葉で語る資質・能力
- ・メタ学習を促す振り返りの充実
- ・道徳と特活を包摂したカリキュラム作成
- ・教科と光輝を関連させ、その関連の方法や関係性について整理

### 学校としての到達点

- ・協働する力の向上
- ・子どもを見取る力の向上
- ・カリキュラム・デザイン/マネジメントをする力の向上

## 取組

### 道徳・特別活動の包摂や教科関連の方法

多様な社会に生きるための

#### カリキュラム作成の共通理解

集約としての「道徳」例：中間発表後

表を使ったら  
もう少しゆっくり話す  
というよ  
分かりやすいね  
OOの立場の人はどう  
思っているの  
とても興味深い

連結としての「道徳」



どういう包摂の仕方があるかを整理してまとめる

#### カリキュラム作成の共通理解



見方・考え方  
内容面と方法面  
によって関連させる

総合的な学習の時間の  
全ての時間

道徳・特別活動の  
全ての時間

各教科の  
1/4上限の時間

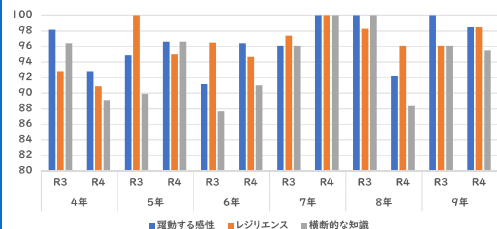
「光輝(かがやき)視点の保育」  
多くの時間数は5~10時間(年)に収まっている。



**調査結果**

**道徳・特活を包摂した効果**

特別活動 児童生徒アンケート肯定的回答率



道徳アンケート肯定的回答率 (%)

	4年	5年	6年	7年	8年	9年
躍動する感性	94.6		96.4		92.3	97.0
レジリエンス		93		100		
横断的な知識						今年度は調査実施なし

- ・成果物や行動観察などによって質的な分析も実施
- ・抽出見対象

（今日できるようになったことは、なぜできるようになったのか、という問いに対して）  
**前の道徳のおかげが全員でできたから。**

9月8日(水) 单元名 三原市の20年

今の自分の仲間グループで具体的に作大体和スターに書き込んでいる。今日の学習で何ができているように、複数の観点から自分自身を振り返ることができた。何と中心に何を考え直せた。

なぜそれができるようになったのか、前の道徳の利が、全員でできたから。正しい道徳に心をよせるための準備ができたから。自分自身でできるようになったことが何とつながるか、次からも同じよう頑張ることに頑張る。家とかでの計画とかでできよう。



**事例 道徳を光輝に包摂した成果 (9年生)**

**事例 特別活動を光輝に包摂した成果 (5年生)**

**事例 特別活動を光輝に包摂した成果 (5年生)**

**成果 道徳・特活を光輝に包摂した効果**



○体験的に学ぶ中で、多様な価値にふれ、**道徳的実践意欲**が高高まり、具体的行動として表れてきている。

○簡単に解決できない、探究的な課題を設定することによって、協働の場面が生まれ、「**集団や社会の形成者として**」考える機会がもてる。

○どんなふうになりたいかという「**自己実現**」の視点を加えることで、何が必要かより考えるようになる。

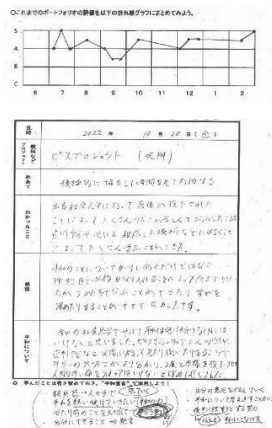
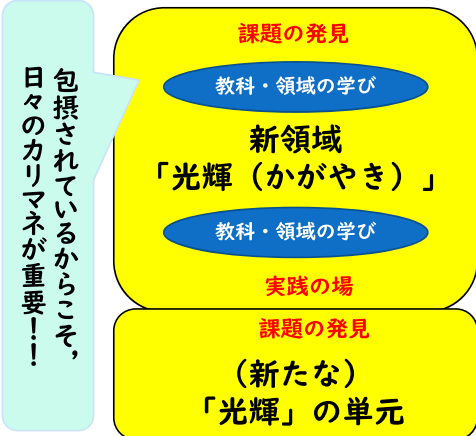
→特に**特別活動とのつながりが顕著**であり、**多様な他者との協働する姿**が見られるようになってきている。

26

**提言 総合と光輝(かがやき)を比較して**

○「連結する学び:総合」

○「包摂し、関連させた学び:光輝」



**成果**

**多様性社会における構成概念と発達に応じた保育・各教科等で育む力との関連表**

	多様性社会における構成概念				各教科の方法的な知識
	創造性 独自性 (いまないもの)	相互依存性 (おたがいのつながり) 協働・連携・責任性 (力を合わせて)	持続可能性 (ずっとつづく) 有限性 (かぎりがある)	多様性 多文化共生 (一人一人のちがいを大切に)	
幼小接続期	【6歳】発表ごっこ 【1年】あそびのちびどり 【2年】遊びの大作戦 【3年】あそびのちびどり	【3歳】おどやさんごっこ 【4歳】おどやさんごっこ 【5歳】おどやさんごっこ 【6歳】おどやさんごっこ 【7年】あそびのちびどり 【8年】あそびのちびどり		【3歳】発表ごっこ 【4歳】発表ごっこ 【5歳】発表ごっこ 【6歳】発表ごっこ 【7年】あそびのちびどり 【8年】あそびのちびどり	言葉のまじりや順序・作業手順や時間の順序の関係・説明(国) ※各教科や単元と各教科とを行き来しながら方法的な知識の蓄積を養う。
転換期	【3年】グループ作りをつくらう 【4年】グループ作りをつくらう 【5年】グループ作りをつくらう 【6年】グループ作りをつくらう	【3年】グループ作りをつくらう 【4年】グループ作りをつくらう 【5年】グループ作りをつくらう 【6年】グループ作りをつくらう	【4年】環境フェス	【3年】おどやさんごっこ 【4年】おどやさんごっこ	ローマ字入力とPC検索、事実と意見、キーワード、要約力(国)原因、結果から考察(理)グラフや表の整理(算)
小中接続期	【5年】調査ごっこ 【6年】調査ごっこ 【7年】調査ごっこ	【6年】調査ごっこ 【7年】調査ごっこ		【5年】発表ごっこ 【6年】発表ごっこ	割合・統計、表の整理(算)メディアリテラシー(社)目的と相手意識、テーマや主題の読み取り(国)
義務教育完成期	【8年】調査ごっこ 【9年】調査ごっこ	【8年】調査ごっこ 【9年】調査ごっこ		【8年】発表ごっこ 【9年】発表ごっこ	文章作成、文脈の比較(国)スピーチ、英作文(英)、関数の考え方、統計(数)多様性の理解(保健)
各教科	空間的、多面的多角的な見方(考)力(他)	人の相互、社会参加、仕組みと制度(社)倫理・正義と規範意識、生活系、環境問題、生物とのつながり(生物)、多様な文化との関わり(音)実用性、多角的な見方(考)力(他)	時間的な見方、文化(化)貴重資源の活用、科学的エネルギー・保存(理科)経済的、環境問題、生命の連続性、進化(理)持続可能な社会の構築(家)	造形的な見方、自分のイメージ(図)生物の進化、もののつくり(図)長所短所(社)総合的・発展的に考える(算)、運動の多様な関わり方(体)	<b>横断的な知識</b> 比較・分類・関係付け・焦点化・多角的・統合・予想・順序付け・批判・未来予測・計画・確率・平均・マップのつくろ
特別活動	自己実現 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義	人間関係形成、自己実現、合意形成、意思決定	社会参加、行動参加	自主的・実践的な集団活動	
道徳	異文化理解、相互理解、寛容、自然愛護、防災、自然観察と共生、民族	相互理解、寛容、思いやり、感謝、勤労、奉仕、学校生活、集団生活の充実、自主、自律、自己責任と責任、公民、公平	社会参加、行動参加	生命尊重、福祉、文化、伝統文化、歴史と保護、防災、経済優先と環境保護	公徳心、社会正義、向上心、個性の伸長
背景となる 本校校園の教育理念・文化	自律・自発性(利他性) ヘア・異学年交流				<b>躍動する感性</b> 興味・関心・価値・意欲・感じ方・行動



成果

多様性社会における構成概念と発達に応じた保育・各教科等で育む力との関連表

	多様性社会における構成概念				各教科の方法的な知識
	創造性	相互依存性	持続可能性	多様性	
幼小接続期	見方・考え方という教科の捉えをもとに、 方法面での関連 内容面での関連 またはその両方の関連 という具体の形が示され、 カリキュラムが充実した				言葉のまとまりや順序・作業手順や時間の順序の関係・説明(語)が活動や経験と各教科とを行き来しながら方法的な知識の素地を養う。
転換期					ローマ字入力やPC検索、事実と意見、キーワード、要約力(国)原因、結果から考察(理)グラフや表の整理(算)
小中接続期					割合、統計、表の整理(算)メディアリテラシー(社)目的と相手意識、テーマや主題の読み取り(国)
義務教育完成期	【8年】個人で探究活動に取り組み【9年】個人で探究活動に取り組み【9年】グループで探究活動に取り組み	【8年】チームで探究活動【9年】グループで探究活動	【8年】個人で探究活動【9年】個人で探究活動	【8年】グループで探究活動【9年】個人で探究活動	【8年】算学学習での学び【9年】個人探究学習【9年】個人探究学習
各教科	定規的、多面的多角的な見方や考え方(社) 異文化理解(外、英) 伝統や文化との関連(音) 生物の種類と分類(理)	人の相互、社会参加、仕組みと制度(社) 倫理規範と倫理規範、生き物、環境問題、生物とつながり(国) 表解と短所(社)統合的・発展的(算、数)、運動と多様な関わり(体)	時間的な見方、変化(社) 異文化理解(外、英) 表解と短所(社)統合的・発展的(算、数)、運動と多様な関わり(体)	造形的な視点、自分のイメージ(造) 物の進化、ものづくり(理) 表解と短所(社)統合的・発展的(算、数)、運動と多様な関わり(体)	
特別活動	自己実現 多様な社会と協働する様々な集団活動の意義	人間関係形成、自己実現、合意形成、意思決定	社会参加、行動参加	自主的・実践的な集団活動	
道徳	国際理解、相互理解、寛容、自然愛護、学校生活、集団生活の充実、自主、自信、自由と責任、公正、公平	相互理解、寛容、思いやり、感謝、勤労、奉仕、学校生活、集団生活の充実、自主、自信、自由と責任、公正、公平	社会参加、行動参加	自主的・実践的な集団活動	

背景となる  
本校校園の教育理念・文化

自伸会信条(利他性)  
ベア・真学年交流

教科の捉えの教員研修

調査結果 課題

教科との関連を評価する

教科	「光輝(かがやき)」と教科の関連の検証 ○検証済 △未検証	「光輝(かがやき)」と教科1/4を関連付けたことによる各教科の特徴的な効果
国語	幼小接続期 転換期 小中接続期 義務教育完成期	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科で身に付けた言葉による見方・考え方を、「光輝(かがやき)」において活用することで、学んだことを国語科だけにどめることなく、他教科や日常生活にも活用しようとする態度を涵養することができている。さらに、「光輝(かがやき)」において言葉による見方・考え方を活用することを通して、子どもが、言葉による見方・考え方を実践的に鍛えたり、言葉による見方・考え方を高める必要性を自覚したりすることで、国語科における学習への好影響が生まれる。また、国語科において扱う文章内容を、光輝における課題設定や情報収集として位置付けることが可能である。文章内容が、日常生活や社会生活につながりをもっていること実感することで、子どもが、様々な文章に触れる意欲をもつことができると考える。</li> </ul>

- ・国語や社会などは光輝とは関連性が高いなどの教科特性
- ・音楽や図工・美術などは高学年になるにつれて関連が高まる、といった発達段階に応じた特性がある

今後検証が必要となる

- ・この効果は全てに共通するか
- ・教科時数は削減可能か
- ・誰でも実施可能か

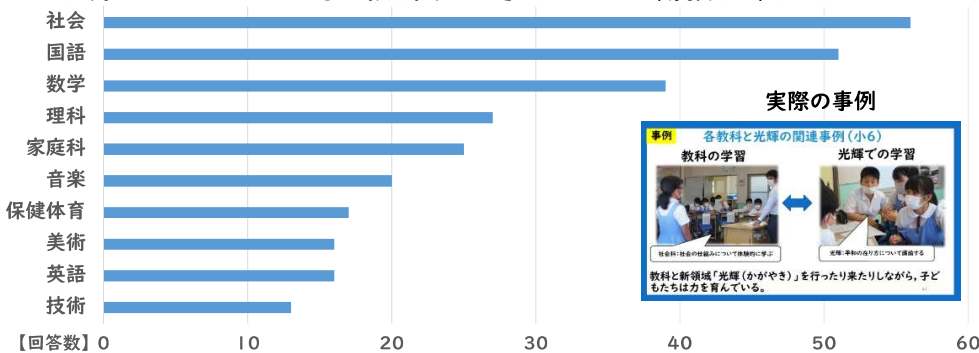
etc  
30

調査結果 成果

子どもたちは教科横断を実感しているか

【義務教育完成期 8・9年生対象アンケート調査(R4 10月実施)】

探究学習のテーマを決めたり、探究を進めていく中で、これまで学んできた「各教科」のどんな内容や学び方、見方・考え方、視点などが役に立っていますか。役に立っていると思う教科名を選びましょう(複数可)。



成果

幼稚園と小学校をつなぐ

三原版幼小接続カリキュラム	子どもたちが幼稚園までに身に付けた学習内容、入学したときにできない子どもは少ないと実感できること、言葉や態度、生活習慣など、入学したときにできない子どもは少ないと実感できること、言葉や態度、生活習慣など、入学したときにできない子どもは少ないと実感できること。	84年10月14日現在
幼小で大切にしていること	失敗すること ぶつかる 振り返る	成長の実感 実際に合った提示 個々の願いの尊重 待つ 見守る
育てたい資質・能力	キーワード	実践事例
知識	【国語】 【算数】 【理科】 【社会】 【音楽】 【美術】 【英語】 【技術】	
能力	【国語】 【算数】 【理科】 【社会】 【音楽】 【美術】 【英語】 【技術】	
態度・行動	【国語】 【算数】 【理科】 【社会】 【音楽】 【美術】 【英語】 【技術】	
学び続ける力	【国語】 【算数】 【理科】 【社会】 【音楽】 【美術】 【英語】 【技術】	
社会性	【国語】 【算数】 【理科】 【社会】 【音楽】 【美術】 【英語】 【技術】	
自己肯定感	【国語】 【算数】 【理科】 【社会】 【音楽】 【美術】 【英語】 【技術】	
学び続ける力	【国語】 【算数】 【理科】 【社会】 【音楽】 【美術】 【英語】 【技術】	
社会性	【国語】 【算数】 【理科】 【社会】 【音楽】 【美術】 【英語】 【技術】	
自己肯定感	【国語】 【算数】 【理科】 【社会】 【音楽】 【美術】 【英語】 【技術】	

- ・幼稚園と小学校の接続をスムーズにするために「三原版幼小接続カリキュラム」
- ・教科がないからこそ、内容面での繋がりが難しい保育とは、教師の関わりという視点で接続のカリキュラムを考えました。

32

## 調査結果 成果 中学校卒業後も、生きて働く力となりえているか？

○高校生対象のアンケートより (n=28, R4 5月実施)

Q:新領域「光輝(かがやき)」で多くのことを学べたと思う

A:平均**4.5** (5件法, 5がとても思う)

### 具体例:

隣の人に自分の考えを説明するとき自分の考えがどのようにして深まっていったのか、順序立てて説明するときにこの光輝で身につけた力が活用されていると感じます。

高校に入って、初めて友達に話しかける場面で光輝(かがやき)の勉強が役に立った。

高校で出会う、新しいメンバーとも **つながりや価値を生み出そうとしている姿**が見られている。



→方法知や内容知を学習場面や生活場面に転用して生かしている。

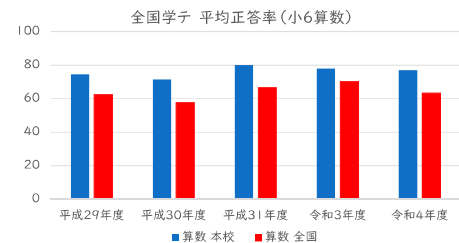
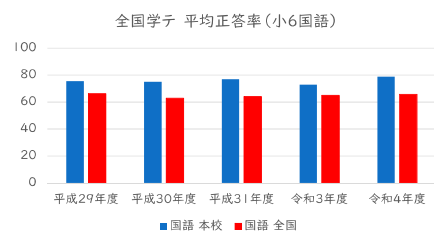
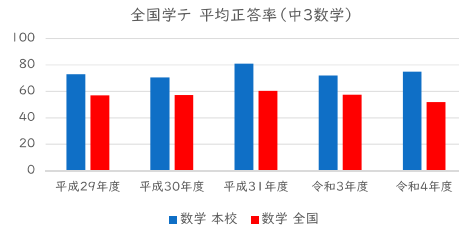
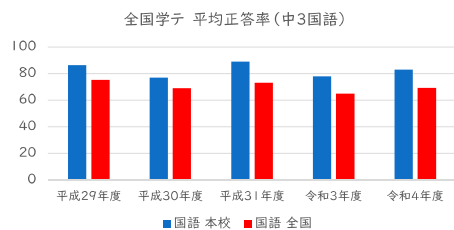
33

## 研究開発の効果

子どもへの効果・教師への効果・保護者への効果と  
研究開発の成果と今後への課題

34

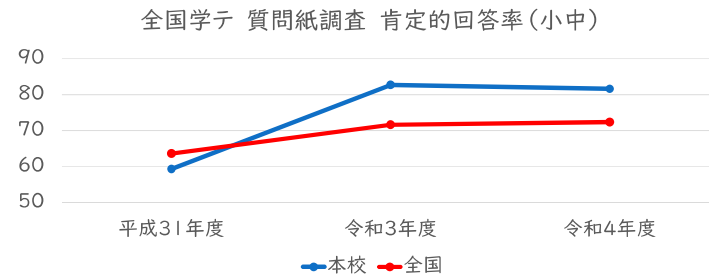
## 調査結果 全国学力・学習状況調査結果の比較・検討



35

## 調査結果 全国学力・学習状況調査結果の比較・検討

問:「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



探究のプロセスに関する力の高まり

36

**成果**

## 子どもへの効果

- 教科の時間が一部関連実施をしても、狭義の学力低下は認められなかった。
- 他者との協働に関する力や探究的なプロセスに関わる力で大きな成果が出ている。
- 光輝での学習は卒業後も役立っている。

**課題**

- どのように育てるか、教師の共通認識が子どもの育ちに影響を大きく与える。

37

**調査結果**

## 教師への効果：教職員アンケートの結果より

研究開発を通して、自分自身に変化が起こったか  
 回答数22に対して、「はい」と答えた割合 **100%**  
 【教師の属性をもとにした質的な分析結果より】



【自己変容と他者評価を重ねてみると…】

子どもの見取りを合同で行っている幼小接続期の部員に、同僚から見ても大きな変容が起こっている

38

**取組**

## 本学校園で取り組んできた会議の回数

【自己評価と他者評価を重ねてみると…】

子どもの見取りを合同で行っている幼小接続期の部員に、同僚から見ても大きな変容が起こっている

	1年間	5年間
時間	会議1回 約1時間～1.5時間	530時間以上
人手	学校園内職員(事務も含む):約40人 運営指導委員:約8人 保育・教科指導助言者:約20人 その他(大学窓口・文科省等):約5人	70人以上
会議	○研究主任会 :8~10回以上 ○三副三研究主任会:8~10回 ○研究開発委員会 :8~10回 ○全体研究部会 :7~9回 ○運営指導委員会 :3回 ○研究に関する研修:1~2回 ○各部会ごとの会議 (月1回×4部会+4チーム:年間約50回) ○その他の会議(大学連携等)	430回以上



39

**成果**

## 本研究開発の課題に、全員で取り組む

「本学校園の取組を参考に、自校等で実施したいこと」に関する回答比較

年度	アンケート回収数	実施したいと答えた数	割合	増減
H29年度 (前研究開発期間)	177件	20件	11.3%	
<b>R3年度</b>	<b>166件</b>	<b>41件</b>	<b>24.7%</b>	<b>+13.4%</b>

研究会でも出てきた課題を教員で理論研修を重ね、改善



**成果**

## 教職員への効果

- 研究開発を通して、成長を認識している教職員が多い。
- 校種を超えて、教育について語り合う場を重要視し、日常的に実施をしてきたことで、教師の成長を促している。

**課題**

- 研究内容については、全員が共通認識をもてるようにする確認の場が必要。
- 仕事の負担量がばらつきが生まれる。一個人の力量に頼らない推進が必要。

41

**調査結果**

## 保護者対象アンケート結果（4件法、3・4を肯定的）

	質問項目	R1	R3	R4
①	「光輝(かがやき)」の学習に興味がある。	3.52	3.57	3.47
②	「光輝(かがやき)」の学習で、子どもたちは、よりよいものを求めて、周囲の事象や人々に関心を持ち、積極的にかかわろうとする姿が増えていると感じる。 (「光輝(かがやき)視点の保育」で子どもたちが、今まで経験したことを活かして、遊びや生活に取り入れるようになってきていると感じる。)	3.35	3.46	3.26
③	「光輝(かがやき)」の学習で、子どもたちに最後まで諦めずに挑戦する力がついていると感じる。(「光輝(かがやき)視点の保育」で子どもたちが、したいことを諦めずにやってみようとするようになってきていると感じる。)	3.22	3.39	3.29
④	「光輝(かがやき)」の学習で、子どもたちは授業で学んだことを実生活でも積極的に活用している姿が増えていると感じる。 (「光輝(かがやき)視点の保育」で子どもたちが、身の回りの環境に興味を持ち、自分からかかわろうとするようになってきていると感じる。)	3.23	3.33	3.27

※令和2年度は感染症流行のため公開なし

42

**調査結果**

## 保護者対象アンケート結果（4件法、3・4を肯定的）

	質問項目	R1	R3	R4
⑤-1	「光輝(かがやき)」で、よりよいものを求めて、周囲の事象や人々に関心を持ち、積極的にかかわろうとする姿をめざす子どもの姿が学習で見られた。 (「光輝(かがやき)視点の保育」の中で、身の回りの環境に興味を持ち、自分からかかわろうとするようになる姿が見られた。)		3.51	3.26
⑤-2	「光輝(かがやき)」で、最後まで諦めずに挑戦することをめざす子どもの姿が学習で見られた。(「光輝(かがやき)視点の保育」の中で、子どもたちが、したいことを諦めずにやってみようとするようになる姿が見られた。)	3.40	3.56	3.29
⑤-3	「光輝(かがやき)」で、授業で学んだことを実生活でも積極的に活用しようとしている姿が見られた。(「光輝(かがやき)視点の保育」の中で、子どもたちが、今まで経験したことを活かして、遊びや生活に取り入れるようになる姿が見られた。)		3.42	3.24
⑥	「光輝(かがやき)」の学習で子どもたちは、いきいきと活動していた。 (「光輝(かがやき)視点の保育」で子どもたちは、いきいきと活動していた。)	3.55	3.72	3.61
⑦	また、「光輝(かがやき)」の学習を見てみたい。(また、「光輝(かがやき)視点の保育」を見てみたい。)	3.53	3.68	3.56

43

**成果**

## 保護者への効果

- 常時高い評価をもらっていて、光輝や光輝視点の保育への期待値が大きい。
- 子どもたちがいきいきと学ぶ姿が客観的(保護者の)視点からも伝わっている。

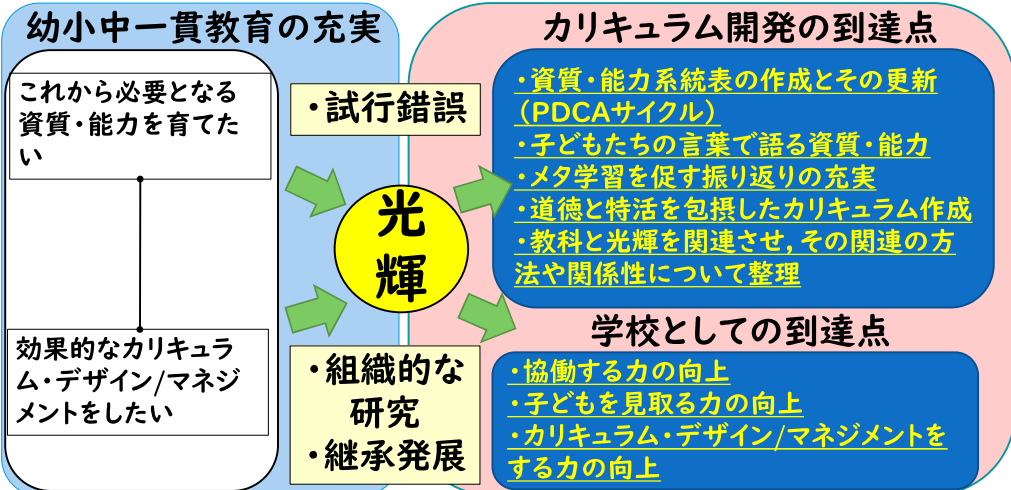
**課題**

- 学校で学ぶ姿と家庭で過ごす姿に乖離している部分がある。
- 狭義の学力との関係性が、保護者の立場からは不明瞭な部分がある。

研究開発だより Vol.6 保護者への啓発資料  
「研究開発だより」  
初年度から毎年発行  
令和4年度はQRコードを添付し、毎回アンケートを実施

44

## 成果 研究開発：三原学校園の到達点



## 課題 研究開発を通して

- いろいろな教科・領域の要素が混じり、活動が重視されている特徴がよさでもありデメリットともなる。
  - 特に、自己の内面を見つめる時間の確保が求められる。今後のカリキュラム改善の視点とする。
- 発達段階に応じた、横断的な知識の在り方を考えていく必要がある
  - 区分の再検討や資質・能力の見直し
- 一人では教育は成り立たない。もちろん学校単体でも。
  - 校内体制の改善と家庭・地域との連携

46

## 参考文献

- ・「今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影」石井英真 日本標準 2015.
- ・「21世紀の学習者と教育の4つの次元：知識,スキル,人間性,そしてメタ学習」C・ファデル, M・ピアリック, B・トリリング 関口貴裕訳; 東京学芸大学次世代教育研究推進機構 北大路書房 2016.
- ・「OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来 エージェンシー, 資質・能力とカリキュラム」白井俊 ミネルヴァ書房 2020.
- ・「資質・能力/理論編」国立教育政策研究所 東洋館出版社 2016.
- ・「生活・総合「深い学び」のカリキュラム・デザイン」田村学 横浜市黒船の会 東洋館出版社 2017.
- ・「『資質・能力』と学びのメカニズム」奈須 正裕 2017.
- ・「教科の本質を見据えたコンピテンシー・ベースの授業づくりガイドブック—資質・能力を育成する15の実践プラン—」奈須 正裕 明治図書 2017.

47

## 参考文献

- ・「現代カリキュラム研究の動向と展望」日本カリキュラム学会編 教育出版 2019.
- ・「2030年の学校教育-新しい資質・能力を育成する授業モデル」西村徳行, 柄本健太郎 明治図書 2021.
- ・「学習評価」田村学 東洋館出版社 2021.
- ・「教育評価重要用語辞典」西岡加名恵・石井英真 明治図書 2021.
- ・「カリキュラム評価入門」田中統治・根津朋実 勁草書房 2009.
- ・「最新教育動向2022」教育の未来を研究する会 明治図書 2021.
- ・「社会情動的スキル: 学びに向かう力」経済協力開発機構(OECD) 明石書店 2018.
- ・「深い学びをつむぎだす」グループ・ディダクティカ 勁草書房 2019.

48

## 参考文献

- ・「深い学び」の科学:精緻化・メタ認知・主体的な学び」北尾倫彦, 図書文化社, 2020
- ・「単元縦断×教科横断 主体的な学びを引き出す9つのステップ」木村明憲, 黒上晴夫, 堀田龍也, さくら社 2020.
- ・「思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実践: 不確実な時代を生き抜く力」H・リン・エリクソン 北大路書房 2020
- ・「ポスト・コロナショックの授業づくり」 奈須正裕 東洋館出版社 2020
- ・「資質・能力を育成する学習評価」 田中保樹 三藤敏樹他東洋館出版社 2020
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館出版社 2020
- ・小学校・中学校 学習指導要領(平成29年)解説【総則編】
- ・小学校・中学校 学習指導要領(平成29年)解説【特別の教科 道徳編】
- ・小学校・中学校 学習指導要領(平成29年)解説【総合的な学習の時間編】
- ・小学校・中学校 学習指導要領(平成29年)解説【特別活動編】

49

本日はどうぞよろしくお願いいたします。



ご清聴ありがとうございました

50